

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書（発行者） | 補助教材（発行者） |
|----------|---|---|--|---------------------------------------|
| 芸術・音楽Ⅰ | 1年 (音楽コース) | 2 | 音楽Ⅰ 改訂版 Tutti (教育出版) | MUSIC NOTE 基礎から学ぶ高校音楽 (啓隆社) 補助プリント |
| 科目の概要と目標 | <p>◆表現領域 歌唱：各自の個性や音楽性を発揮した歌唱表現を可能にするために、発声の基礎及び豊かな響きで他と歌い合わせる能力を身につけるとともに、読譜力の伸長を図る。 器楽：音色へのこだわりを持ち、曲の特徴を生かした表現を工夫することにより、アンサンブルの楽しさを味わうとともに、器楽の基本奏法を身につける。 創作：テーマにそった多様な音楽表現を楽しむ。</p> <p>◆鑑賞領域 音楽の構成に気づくとともに、幅広く多角的な視野からの表現の多様さを味わう。</p> | | | |
| 授業の進め方 | <p>1学期は「校歌」の独唱練習から始め、楽譜に書かれている様々な音楽用語を学習しながら歌う。その後、日本歌曲の独唱、さらに合唱へと進み、それらと並行して簡単な音楽理論に入る。夏休み中には自主学習として各自の専攻分野におけるソロの練習を課題とする。 2学期は各自の専攻分野のソロ発表会から始まり、リコーダー等を使用した器楽の学習に入る。後半は、日本の音楽や各種音素材とのコラボレーションやアンサンブルに挑戦する。 3学期は1, 2学期で学んだことをもとにして創作ミュージカルを上演する。</p> | | | |
| 評価の観点と方法 | <p>1, 2学期は授業時間内に行う音楽会形式での発表が実質的な実技試験となる。また、音楽理論についても各学期の特別授業において筆記試験を行う。 3学期の創作ミュージカルは参加状況、提出したレポートまたは楽譜を点数化する。 年間の成績評価はそれぞれの試験の点数に平常点を加味したものである。毎回の授業に集中し、積極的な自己表現を目指すことが大きな鍵となる。</p> | | | |
| | 学期 | 単元・学習項目 | 学習内容・到達度目標 | |
| 年間の授業内容 | 1学期 | 4月「豊かな響きで歌おう」 5月「歌詞を味わい、旋律の流れを感じ取って歌おう」 | 〔内容〕校歌・日本歌曲の独唱 〔目標〕 ・独唱をとおして、発声の基礎を身につけることができる。 ・自分の声について考えたり、歌うことのおもしろさや、楽しさを味わうことができる。 | |
| | | 「芸術歌曲に親しもう」 | 〔内容〕Caro mio ben・Ombra mai fu・Heidenroslein 他 〔目標〕 ・外国語曲の歌唱に必要な発音上の基本的事項が理解できる。 ・イタリア古典歌曲を原語で独唱することができる。 | |
| | | 8月「専攻分野の発表をしよう」 | 〔内容〕自由曲（各自の選曲）に取り組む。 〔目標〕 ・各自の専攻分野に関して、より音楽的な表現を目指すための計画的な練習の習慣づけをする。 | |
| | 2学期 | 9月「美しい合唱の響きを作ろう」 | 〔内容〕校歌（合唱）・邦人合唱曲・ハレルヤ（ヘンデル作曲） 〔目標〕 ・読譜をとおしての作品へのアプローチを図ることに慣れる。 ・使用頻度の高い楽語の意味が分かる。 ・歌い合わせることのおもしろさや、楽しさを味わうことができる。 | |
| | | 10月「リコーダーをとおして、器楽に親しもう」 11月、12月「器楽アンサンブルに親しもう」 | 〔内容〕リコーダー独奏及びアンサンブル 〔目標〕 ・リコーダーや和楽器等の演奏をとおして器楽表現に親しむ。 ・それぞれの楽器の持つ音色の美しさを感じ取り、表現に生かそうと工夫することができる。 | |
| | 3学期 | 1月、2月、3月「創作ミュージカルを上演しよう」 | 〔内容〕童話や民話を題材とした子どものためのミュージカル作品 〔目標〕 ・これまでの各自の音楽経験や1, 2学期で学んだことをもとに、意欲的に取り組むことができる。 ・ミュージカル上演に向けてのマネージメントに関することにも注意を向けることができる。 | |